

# ご存じですか！文化財

## 「騎西の百万遍」ひやくまんへん

47



問合せ  
生涯学習課  
(☎0480・62・1221)



百万遍が行われている主な場所(上崎地内)

百万遍は、鎌倉期に知恩寺の僧が修行僧を集め、一週間にわたり、1080個の珠の数珠を操る修法を行ったことが始まりといわれます。また、元弘(1331)~1333)年間、疫病をこの修法で鎮めたので後醍醐天皇から「百万遍」の号がくだされたといわれています。

百万遍が当地方でいつから行われるようになったのかは明らかではありませんが、現在伝わる資料によれば、18世紀頃と思われる。騎西地域では多くが耕地の集落で講組織で行われ、講

元や講当番の家に集まり、約8メートルの長い数珠を一同が持ち座ったまま数珠を右回りに操りながら、「ナイダ・ナイダ・ナイダ」と合唱します。ナイダは「南無阿弥陀仏」という念仏が詠じたもので、招福除災を祈禱するものです。各家庭からサシ(寄付)を求め、それで子どもにお菓子や飲み物を買って配りますが、近年はお金を配るところもあるようです。

都市化が進み、こうした行事が少なくなっていることは寂しいものです。



百万遍で使われる道具

紹介者 新井 敏夫さん(上崎)